

意見伺い

[平成21年度設置]

計画の区分：研究科以外の教育研究上の基本となる組織(学府)の設置

注1

九州大学大学院統合新領域学府

オートモーティブサイエンス専攻(博士後期課程)

注2

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 九州大学
平成23年5月1日現在

作成担当者

総務部法令審議室法規係

カカリチヨウ ニシムラ マサル
係長 西村 大

電話番号 092-642-2108

(夜間) 092-642-2108

F A X 092-642-2113

e-mail syshoki@jimu.kyushu-u.ac.jp

工学部等事務部総務課庶務係

カカリイン マツオ ヨウコ
係員 松尾 陽子

電話番号 092-802-3857

(夜間) 092-802-3857

F A X 092-802-2701

e-mail matsuo.yoko.553@m.kyushu-u.ac.jp

(注)1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「 大学大学院 ……」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に
()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 大学 学部

(学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「 大学」

・学部の設置の場合：「 大学 学部」

・学部の学科の設置の場合：「 大学 学部 学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「 短期大学 学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「 大学大学院 研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「 大学 学部 学科(通信教育課程)」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	6
3	施設・設備の整備状況，経費	9
4	既設大学等の状況	10
5	教員組織の状況	15
6	留意事項に対する履行状況等	18
7	その他全般的事項	19

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 九州大学

(2) 大学名

九州大学

(3) 大学の位置

〒812-8581
福岡県福岡市東区箱崎6丁目10番1号

〒819-0395
福岡県福岡市西区大字元岡744番地

(〒812-8581
福岡県福岡市東区箱崎6丁目10番1号)

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ア리카ワ セツオ) 有川節夫 (平成20年10月1日)		
学府長		(モリタ ヨシツグ) 森田昌嗣 (平成23年4月1日) (シオツグ キョアキ) 塩次喜代明 (平成21年4月1日)	学府長に就任 平成23年4月1日 (23) 学府長に就任 平成21年4月1日 (21)

専攻長等		<p>《ユーザー感性学専攻》 (ワタスキ シゲキ) 綿貫茂喜 (平成23年4月1日)</p> <p>《オートモーティブサイエンス専攻》 (ウチヤマ マコト) 内山 誠 (平成23年4月1日)</p> <p>《ライブラリーサイエンス専攻》 (オカザキ アツシ) 岡崎 敦 (平成23年4月1日)</p>	<p>専攻長に就任 平成23年4月1日 (23)</p>
------	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例)平成20年度に報告済の内容 (20)

平成23年度に報告する内容 (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注)・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成21年度開設の博士後期課程の場合(平成23年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画		備考	
	修業年限	入学定員		収容定員
統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 博士(オートモーティブ工学) 博士(学術) 博士(工学)	3年	7人	21人	基礎となる学部等 経済学府、工学府、システム情報科学府

- (注)・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	7 (-) [-]		7 (-) [-]		7 (-) [-]		1.09倍	
志願者数	9 (6) [1]	1 (0) [1]	9 (5) [2]	0 (0) [0]	6 (1) [3]			
受験者数	9 (6) [1]	1 (0) [1]	9 (5) [2]	0 (0) [0]	6 (1) [3]			
合格者数	8 (5) [1]	1 (0) [1]	8 (4) [2]	0 (0) [0]	6 (1) [3]			
B 入学者数	8 (5) [1]	1 (0) [1]	8 (4) [2]	0 (0) [0]	6 (1) [3]			
入学定員超過率 B / A	1.28		1.14		0.85			

- (注)・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「 - 」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「 - 」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「 - 」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成 2 1 年度		平成 2 2 年度		平成 2 3 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[1] 8	[1] 1	[2] 8	[0] 0	[3] 6	[]	
2 年次	/		[1] 8	[0] 0	[2] 8	[0] 0	
3 年次			/		[1] 8	[0] 0	
計	[2] 9	[3] 16			[6] 22		

- (注) ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「 - 」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「 - 」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
 - ・ 「平成 2 3 年度」には、平成 2 3 年 5 月 1 日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成 2 0 ~ 2 2 年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a / b)
平成 2 1 年度 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)	計 [1] 1	(累積)計 [2] 9	11.1%
	うち平成 2 1 年度入学者 1人	うち平成 2 1 年度 9人	
(主な退学理由) ・ 本学他学府への転学府			
平成 2 2 年度 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)	計 [0] 0	(累積)計 [4] 16	0.0%
	うち平成 2 1 年度入学者 0人	うち平成 2 1 年度 8人	
	うち平成 2 2 年度入学者 0人	うち平成 2 2 年度 8人	
(主な退学理由)			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、[当該対象年度における退学者数]を、[当該対象年度の入学者数 + 当該対象年度前年度までの確定した入学者数]で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・ 就学意欲の低下 ・ 学力不足 ・ 他の教育機関への入学・転学 ・ 海外留学
 - ・ 就職 ・ 学生個人の心身に関する事情 ・ 家庭の事情 ・ 除籍 ・ その他

2 授業科目の概要

< オートモーティブサイエンス専攻（博士後期課程） >

（1）授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	上級国際コミュニケーション演習	1・2・3通	2									科目の充実を図るため教員を追加（23） [担当 目代 武史（准教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）] 平成23年3月石原准教授転出に伴う後任補充（23） [担当 杉原 誠（准教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）] 科目の充実を図るため教員を追加（22） [担当 内山誠（教授） 安田琢磨（准教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」（22）] 平成21年4月1日より教授就任のため（21）
	リサーチ・ワークショップ	1・2・3通	2									科目の充実を図るため教員を追加（23） [担当 目代 武史（准教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）] 平成23年3月石原准教授転出に伴う後任補充（23） [担当 杉原 誠（准教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）] 科目の充実を図るため教員を追加（22） [担当 内山誠（教授） 安田琢磨（准教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」（22）] 平成21年4月1日より教授就任のため（21）
	インターンシップ オートモーティブサイエンス特論	1・2・3通 1前	3 1									

特別研究	オートモティブサイエンス特別研究A	1~3通	12	3	4	2	[担当 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 合 (22)]	[科目の充実を図るため教員を追加 (22) 平成21年4月1日より教授就任のため (21)]
	オートモティブサイエンス特別研究B	1~3通	12	2	2			
	オートモティブサイエンス特別研究C	1~3通	12	4	3	2	[担当 杉原 誠 (准教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 合 (23)]	[科目の充実を図るため教員を追加 (22) 平成23年3月石原准教授転出に伴う後任補充 (23)]
	オートモティブサイエンス特別研究D	1~3通	12	1	1			
	オートモティブサイエンス特別研究E	1~3通	12			1	[担当 内山誠 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 合 (22)]	[科目の充実を図るため教員を追加 (22) 平成22年1月 教員審査済 判定 合 (22)]
	オートモティブサイエンス特別研究F	1~3通	12			1		
		1~3通 未開講					[担当 目代 武史 (准教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 合 (23)]	[未配置となっていた専任教員の補充 (23) 専任教員未配置のため (21) (22)]

- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。（ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません）。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	8	0	10	2	8	0	10	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合： 1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注)・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。（ただし，未開講科目があった場合は，(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。）

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注)・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	2,413,804 m ²	0 m ²	0 m ²	2,413,804 m ²			
	運動場用地	260,391 m ²	0 m ²	0 m ²	260,391 m ²			
	小 計	2,674,195 m ²	0 m ²	0 m ²	2,674,195 m ²			
	そ の 他	72,278,444 m ²	0 m ²	0 m ²	72,278,444 m ²			
	合 計	74,952,639 m ²	0 m ²	0 m ²	74,952,639 m ²			
(2) 校 舎	専 用	709,613 m ²	0 m ²	0 m ²	709,613 m ²			
	(709,613m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(709,613m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	205 室	384 室	353 室	14 室 (補助職員 6人)	11 室 (補助職員 5人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員1名の退職、及び専任教員2名を新規採用のため(23) 専任教員2名を新規採用のため(22)		
	統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻 (博士後期課程)			18 47 45 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	統合新領域学府 オートモーティブサイエンス 専攻(博士後期 課程)	422,610〔242,506〕 (422,610〔242,506〕)	8,972〔5,435〕 (8,972〔5,435〕)	48,276〔40,115〕 (48,276〔40,115〕)	4,750 (4,750)	139 (139)	5,641 (5,641)	
	計	422,610〔242,506〕 (422,610〔242,506〕)	8,972〔5,435〕 (8,972〔5,435〕)	48,276〔40,115〕 (48,276〔40,115〕)	4,750 (4,750)	139 (139)	5,641 (5,641)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	11,133 m ²		752 740 席		1,340,000 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,449 m ²		弓道場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	- 千円	- 千円	図書購入費	- 千円	- 千円	- 千円
	共同研究費等	- 千円	- 千円	設備購入費	- 千円	- 千円	- 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		国費による						

- (注)・ 設置認可時の計画を，認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を，その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は，その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については，上段に完成年度の予定数値を，下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を赤字で見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお，昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延)がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	九州大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員 人	編入学 定員 人	収容 定員 人	学位又は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
人文科学府	年	人	年次 人	人		倍	平成12年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
人文基礎専攻								
修士課程	2	16		32	修士(文学)	0.31		
博士後期課程	3	8		24		0.58		
歴史空間論専攻					博士(文学)			
修士課程	2	20		40		0.85		
博士後期課程	3	10		30		0.63		
言語・文学専攻								
修士課程	2	20		40		0.90		
博士後期課程	3	10		30		1.10		
比較社会文化学府							平成12年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地
日本社会文化専攻					修士(比較社会 文化)	1.51		
修士課程	2	24		48				
博士後期課程	3	20		60	修士(理学)	1.11		
国際社会文化専攻					博士(比較社会 文化)	0.93		
修士課程	2	26		52				
博士後期課程	3	20		60	博士(理学)	0.58		
人間環境学府							平成12年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
都市共生デザイン専攻					修士(人間環境 学)	1.07		
修士課程	2	20		40				
博士後期課程	3	5		15	修士(文学)	0.93		
人間共生システム専攻					修士(教育学)		"	
修士課程	2	11		22	修士(心理学)	0.67		
博士後期課程	3	9		27	修士(工学)	1.47		
行動システム専攻							"	
修士課程	2	17		34	博士(人間環境 学)	0.81		
博士後期課程	3	10		30		0.86		
教育システム専攻					博士(文学)		平成17年度	
修士課程	2	19		38	博士(教育学)	0.89		
博士後期課程	3	9		27	博士(心理学)	0.84		
空間システム専攻					博士(工学)		平成12年度	
修士課程	2	28		56	(実践臨床心 理学専攻は臨 床心理士(専 門職))	1.42		
博士後期課程	3	7		21		0.80		
実践臨床心理学専攻 専門職学位課程	2	30		60		0.99	平成17年度	
法学府							平成22年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
法政理論専攻					修士(法学)			
修士課程	2	72		134		0.60		

博士後期課程	3	17		34	博士（法学）	0.43		
法務学府 実務法学専攻 専門職学位課程					法務博士（専門職）		平成16年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
経済学府 経済工学専攻 修士課程	2	20		40	修士（経済学）	0.85	平成12年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
博士後期課程	3	10		30	博士（経済学）	0.63		
経済システム専攻 修士課程	2	27		54	（産業マネジメント専攻は経営	0.92	平成15年度	
博士後期課程	3	14		42	修士（専門職）	0.61		
産業マネジメント専攻 専門職学位課程	2	45		90	）	0.95	”	
理学府 物理学専攻 修士課程	2	41		82	修士（理学）	0.93	平成20年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号
博士後期課程	3	14		42		0.47		
化学専攻 修士課程	2	62		124	博士（理学）	0.99	”	
博士後期課程	3	19		57		0.64		
地球惑星科学専攻 修士課程	2	41		82		0.92	”	
博士後期課程	3	14		42		0.54		
数理学府 数理学専攻 修士課程	2	54		108	修士（数理学） 修士（技術数理学）	1.08	平成12年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地
博士後期課程	3	20		60	博士（数理学） 博士（機能数理学）	0.85		
システム生命科学府 システム生命科学専攻 博士課程	5	54		254	修士（システム生命科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学） ） 博士（システム生命科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（情報科学） ）	1.49	平成15年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号
医学系学府 医学専攻 博士課程	4	107		428	修士（医科学） 修士（看護学） 修士（保健学）	1.11	平成20年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号
医科学専攻 修士課程	2	20		40		0.72	平成15年度	
保健学専攻 修士課程	2	20		40	博士（医学）	1.35	平成19年度	
博士後期課程	3	10		30	博士（看護学） 博士（保健学）	1.10	平成21年度	
医療経営・管理学専攻 専門職学位課程	2	20		40	（医療経営・管理学専攻は医療経営・管理学修士（専門職））	1.05	平成13年度	
歯学府 歯学専攻 博士課程	4	43		172	博士（歯学） 博士（臨床歯学） ） 博士（学術）	1.04	平成12年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号
薬学府 創薬科学専攻 修士課程	2	55		55	修士（創薬科学）	1.00	平成22年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号
医療薬科学専攻 博士後期課程	3	14		42	博士（薬学）	0.94	平成12年度	
創薬科学専攻 博士後期課程	3	12		36		0.52	”	
工学府 物質創造工学専攻 修士課程	2	38		59	修士（工学）	1.66	平成12年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地

博士後期課程	3	10		30	1.13		
物質プロセス工学専攻				博士(工学)		"	
修士課程	2	30		49	1.70		
博士後期課程	3	9		27	0.84		
材料物性工学専攻						"	
修士課程	2	33		52	1.44		
博士後期課程	3	7		21	1.14		
化学システム工学専攻						"	
修士課程	2	35		56	1.62		
博士後期課程	3	10		30	0.93		
建設システム工学専攻						"	
修士課程	2	24		41	1.38		
博士後期課程	3	8		24	0.79		
都市環境システム工学専攻						"	
修士課程	2	28		47	1.02		
博士後期課程	3	8		24	0.70		
海洋システム工学専攻						"	
修士課程	2	21		38	1.31		
博士後期課程	3	8		24	0.58		
地球資源システム工学専攻						"	
修士課程	2	20		37	1.32		
博士後期課程	3	8		24	1.20		
エネルギー量子工学専攻						"	
修士課程	2	28		53	1.26		
博士後期課程	3	12		36	0.49		
機械工学専攻						平成22年度	
修士課程	2	62		124	1.24		
博士後期課程	3	19		38	0.94		
水素エネルギーシステム専攻						"	
修士課程	2	30		60	1.10		
博士後期課程	3	9		18	1.10		
航空宇宙工学専攻						平成12年度	
修士課程	2	30		56	1.28		
博士後期課程	3	12		36	0.58		
芸術工学府							
芸術工学専攻				修士(芸術工学)		平成15年度	福岡県福岡市
修士課程	2	92		184	1.26	(平成16年4月学生受入)	南区塩原4丁目
博士後期課程	3	25		75	0.88		9番1号
デザインストラテジー専攻				修士(芸術工学)			
修士課程	2	28		56	1.47	平成18年度	
博士後期課程	3	5		15	1.33	平成20年度	
システム情報科学府							
情報学専攻				修士(情報科学)		平成21年度	福岡県福岡市
修士課程	2	40		80	1.10		西区元岡
博士後期課程	3	14		42	0.68		744番地
情報知能工学専攻				修士(理学)		平成21年度	
修士課程	2	45		90	1.15		
博士後期課程	3	15		45	0.57		
電気電子工学専攻				修士(工学)		平成21年度	
修士課程	2	55		110	1.42		
博士後期課程	3	16		48	0.74		
総合理工学府				博士(情報科学)		平成21年度	
量子プロセス理工学専攻				博士(理学)		平成12年度	福岡県春日市
修士課程	2	37		74	1.65		春日公園6丁目
博士後期課程	3	14		42	1.01		1番地
物質理工学専攻				修士(工学)			
修士課程	2	37		74	1.54		
博士後期課程	3	14		42	0.92		
先端エネルギー理工学専攻				修士(学術)			
修士課程	2	34		68	1.01		
博士後期課程	3	12		36	0.35		
環境エネルギー工学専攻				博士(理学)			
修士課程	2	26		52	1.26		
博士後期課程	3	9		27	0.62		
大気海洋環境システム専攻				博士(工学)			
修士課程	2	30		60	1.01		
博士後期課程	3	11		33	0.45		

生物資源環境科学府 資源生物学専攻 修士課程 博士後期課程 環境農学専攻 修士課程 博士後期課程 農業資源経済学専攻 修士課程 博士後期課程 生命機能科学専攻 修士課程 博士後期課程 生物産業創成専攻 博士後期課程	2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 3	50 19 75 27 13 5 106 12 14		100 38 150 54 26 10 212 24 42	修士(農学) 博士(農学)	1.02 0.94 0.79 0.49 0.95 1.00 0.85 0.54 1.17	平成22年度 " " " "	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号	
統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 修士課程 博士後期課程 オートモーティブサイエンス専攻 修士課程 博士後期課程 ライブラリーサイエンス専攻 修士課程	2 3 2 3 2 3 2	30 4 21 7 10		60 4 42 14 10	修士(感性学) 修士(芸術工学) 修士(工学) 博士(オートモーティブサイエンス) 修士(工学) 博士(感性学) 博士(芸術工学) 博士(工学) 博士(工学)	1.26 2.00 0.99 1.04 0.90	平成21年度 平成22年度 平成21年度 平成22年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地	
文学部 人文学科	4	160		640	学士(文学) 学士(学術)	1.04	平成12年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
教育学部	4	50		200	学士(教育学) 学士(学術)	1.08	昭和24年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
法学部	4	200		800	学士(法学) 学士(学術)	1.02	昭和24年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
経済学部 経済・経営学科 経済工学科	4 4	150 90	3年次 10 3年次 10	620 380	学士(経済学) 学士(学術)	1.08 1.09	平成12年度 昭和52年度	福岡県福岡市東区 東区箱崎6丁目 19番1号	
理学部 物理学科 化学科 地球惑星科学科 数学科 生物学科	4 4 4 4 4	59 67 48 54 49	3年次 5	236 268 192 226 196	学士(理学) 学士(学術)	1.11 1.04 1.06 1.07 1.10	昭和24年度 " 平成2年度 昭和24年度 "	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号	
医学部 医学科 生命科学科 保健学科	6 4 4	111 12 137		626 48 548	学士(医学) 学士(生命科学) 学士(看護学) 学士(保健学) 学士(学術)	1.01 1.16 1.04	昭和24年度 平成19年度 平成14年度 (平成15年4 月学生受入)	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
歯学部 歯学科	6	53		343	学士(歯学)	1.03	昭和42年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
薬学部 創薬科学科 臨床薬学科	4 6	50 30		200 180	学士(創薬科学) 学士(薬学) 学士(学術)	1.09 1.04	平成18年度 "	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
工学部 建築学科 電気情報工学科 物質科学工学科 地球環境工学科 エネルギー科学科 機械航空工学科	4 4 4 4 4 4	60 158 168 150 99 169		240 632 672 600 396 676	学士(工学) 学士(学術)	1.06 1.07 1.08 1.04 1.07 1.09	昭和29年度 平成8年度 平成9年度 平成10年度 " 平成11年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地	
芸術工学部 環境設計学科 工業設計学科 画像設計学科 音響設計学科	4 4 4 4	38 48 38 38		152 192 152 152	学士(芸術工学))	1.07 1.05 1.05 1.07	平成15年度	福岡県福岡市 南区塩原4丁目 9番1号	H16.4 学生受入

芸術情報設計学科	4	40	160		1.04		
農学部				学士(農学)		平成10年度	福岡県福岡市東区
生物資源環境学科	4	229	916	学士(学術)	1.06		箱崎6丁目10番1号

- (注)・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成
年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

< 統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻（博士後期課程） >

（1）担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	石原 達己	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	教授	山木 準一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	教授	村瀬 英一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	安倍 賢一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	川邊 武俊	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	教授	塩次 喜代明	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ						
専任	教授	井上 卓見	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	志堂寺 和則	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究D						
専任	准教授	田中 敬二	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A		教授				平成21年4月1日から教授昇任のため(21)
専任	准教授	加藤 喜峰	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	准教授	袈裟丸 勝巳	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	准教授	石原 亨	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C	専任	准教授	杉原 真	平成23年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C	平成23年3月石原亨准教授 転出のため平成23年度より 担当者の変更(23) 平成23年1月 教員審査済

専任	准教授	中西 恒夫	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	准教授	外井 哲志	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究D						
専任	准教授	藤田 敏之	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究E						
					専任	教授	内山 誠	平成22年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C	平成22年4月から 教育課程の充実のため 専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
					専任	准教授	安田 琢彦	平成22年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A	平成22年4月から 教育課程の充実のため 専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
					専任	准教授	目代 武史	平成23年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究F	平成22年4月から 教育課程の充実のため 専任教員を補充(23) 平成23年1月 教員審査済
兼任	講師	高橋 忠生	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス特論						
兼任	講師	渡邊 浩之	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス特論						
					兼任	講師	高野 明	平成22年4月1日	オートモーティブサイエンス特論	平成22年4月から 教育課程の充実のため 兼任教員を補充(22)

(注)・認可申請書の様式第3号(その2の2)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、表題を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「年 月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「年 月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「年 月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
12	3	15	0	14	3	17	0	
(11)	(3)	(14)	(0)	[2]	[0]	[2]	[0]	

(注)・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合: 1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	准教授	石原 亨	他大学転出のため
2			
3			

(注)・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

後任補充済み(杉原真准教授、平成23年1月 教員資格審査済み)、及び学生にも周知済みのため、教育研究活動への影響はない。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (20年10月)	<オートティブサイエンス専攻(D)> ・教員の補充を必要とされた1 授業科目については、科目開 設時まで確実に専任教員を 配置すること。	・科目開設までに専任教員を 配置するべく、新規人事を含 め検討中である。(21) ・科目開設までに専任教員を 配置するべく、引き続き新規 人事を含め検討中である。 (22) ・平成23年4月1日付けで専任 教員の配置を行った。(23)	
設置計画履行状況 調 査 時 (21年1月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

< 統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 >

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど																														
<p>修了要件単位数</p> <p>修士課程 38単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>1) オートモーティブサイエンス概論</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>2) インターンシップ</td> <td>1科目3単位</td> </tr> <tr> <td>3) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか</td> <td>4科目8単位</td> </tr> <tr> <td>4) 国際コミュニケーション演習</td> <td>1科目4単位</td> </tr> <tr> <td>5) 主分野概論科目</td> <td>1科目2単位</td> </tr> <tr> <td>6) 主分野専門科目</td> <td>12単位以上</td> </tr> <tr> <td>7) 主分野以外の分野の専門科目</td> <td>8単位以上</td> </tr> </table> <p>施設・設備</p> <p>a 講義室・演習室</p> <p>講義室・院生ゼミ室：6室（471m²） ウエスト2号館、4号館</p> <p>準備室：1室（52m²） ウエスト2号館</p> <p>b 自習室</p>	1) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位	2) インターンシップ	1科目3単位	3) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか	4科目8単位	4) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位	5) 主分野概論科目	1科目2単位	6) 主分野専門科目	12単位以上	7) 主分野以外の分野の専門科目	8単位以上	<p>修士課程において、両専攻にまたがる学府共通科目（必修科目：1科目1単位）を開講したことに伴い、修了要件を変更した。（平成22年度）</p> <p>修士課程 38単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 学府共通科目</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>2) オートモーティブサイエンス概論</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>3) インターンシップ</td> <td>1科目3単位</td> </tr> <tr> <td>4) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか</td> <td>4科目8単位</td> </tr> <tr> <td>5) 国際コミュニケーション演習</td> <td>1科目4単位</td> </tr> <tr> <td>6) 主分野概論科目</td> <td>1科目2単位</td> </tr> <tr> <td>7) 主分野専門科目</td> <td>12単位以上</td> </tr> <tr> <td>8) 主分野以外の分野の専門科目</td> <td>7単位以上</td> </tr> </table> <p>学生の修学環境を改善するため、伊都地区に新たに「総合学習プラザ」を建設し、プラザ内にオートモーティブサイエンス専攻専用の講義室や院生研究室等を設けた（平成21年10月供与開始）。</p> <p>これに伴い、講義室・院生ゼミ室の面積が155m²減少したものの、当初の計画と同数の部屋数を確保し、更にオートモーティブサイエンス専攻専用の講義室等を確保することができたことで、適切な学生の教育研究を行うことができています。</p> <p>また、院生研究室については、従来の研究室に加え、総合学習プラザ及び箱崎キャンパス旧工学部5号館5階にオートモーティブサイエンス専攻専用の院生研究室を整備した。本専攻が整備していたこれまでの院生研究室は、既存の学府学生との混住であり、相互に刺激し合いながら知見を広めていく基盤を醸成していた。今回、これに加えてオートモーティブサイエンス専攻専用の院生研究室を新たに整備したことにより、本専攻の異なる分野の学生が集い、様々な角度から「オートモーティブサイエンス」を捉える環境を整えることができた。</p> <p>316 講義室・院生ゼミ室：6室（471 m²） 総合学習プラザ ウエスト2号館、4号館</p> <p>20 総合学習プラザ 準備室：1室（52m²） ウエスト2号館</p>	1) 学府共通科目	1科目1単位	2) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位	3) インターンシップ	1科目3単位	4) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか	4科目8単位	5) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位	6) 主分野概論科目	1科目2単位	7) 主分野専門科目	12単位以上	8) 主分野以外の分野の専門科目	7単位以上
1) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位																														
2) インターンシップ	1科目3単位																														
3) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか	4科目8単位																														
4) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位																														
5) 主分野概論科目	1科目2単位																														
6) 主分野専門科目	12単位以上																														
7) 主分野以外の分野の専門科目	8単位以上																														
1) 学府共通科目	1科目1単位																														
2) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位																														
3) インターンシップ	1科目3単位																														
4) オートモーティブサイエンス演習 ~ 又は 経営管理演習 ~ のいずれか	4科目8単位																														
5) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位																														
6) 主分野概論科目	1科目2単位																														
7) 主分野専門科目	12単位以上																														
8) 主分野以外の分野の専門科目	7単位以上																														

院生研究室：3室（359m²） ウエスト2号館、4号館

6 452
院生研究室：3室（359m²） ウエスト2号館、4号館
及び総合学習プラザ

- （注）・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

実施体制

a 委員会の設置状況

九州大学では、全学的な組織として「全学ファカルティ・イノベーション (FD) 委員会」が設置されており、本学府からも委員を選出している。

一方、本学府では、FD委員会という形での委員会は設置していない。これに代わるものとして、学府では「学府長・専攻長会議」を定期的に行い教育内容に係る協議を行うと共に、各専攻においても独自の取り組みを行っている。

オートモーティブサイエンス専攻においては、教育の質の向上を図るため、専攻運営会議を開催し諸課題への対応策を協議すると共に、「オートモーティブサイエンス・コンソーシアム」を発足させ、産官学による連携体制を構築し、本専攻で行う教育研究活動に反映している。

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

学府長・専攻長会議：10回程度 (学府長及び専攻長2名が参加)

専攻運営会議：随時 (1ヶ月に1程度。毎回半数以上の教員が参加。)

c 委員会の審議事項等

学府長・専攻長会議

- ・学府及び各専攻の現状把握等

専攻運営会議

- ・専攻の運営等
- ・オートモーティブサイエンス・コンソーシアムの開催
- ・入学試験の実施方法
- ・上級国際コミュニケーション演習の実施方法

実施状況

a 実施内容

オートモーティブサイエンス・コンソーシアムの開催

その他

- ・専攻の独自性や目標についての相互理解

b 実施方法

オートモーティブサイエンス・コンソーシアム

- ・自動車に関する諸課題の解決を目指し、分野と産官学の垣根を越えた大きな知の結合を図るために、大学や企業・自治体、学生などが一同に集結する会合。平成21年度は、12月と3月の2回開催した。平成22年度以降は、本専攻の5つの分野が各々開催する「分野会合」及び全分野が集う「全体会合」を定期的に行うことにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

オートモーティブサイエンス・コンソーシアム

- ・平成21年12月13日、福岡国際会議場にて開催
（財）日本自動車研究所・技監 堀政彦氏による基調講演、自動車メーカー各社によるパネル討議、本専攻大学院生のインターンシップ体験談を通じて、次世代自動車技術とその人材を展望。
- ・平成22年3月5日、ソラリア西鉄ホテルにて開催
東京大学 藤本隆宏教授による基調講演や本専攻各分野の教員による一般講演を通じて、自動車産業の未来像や自動車産業が今抱えている社会的・技術的課題を様々な角度から議論し、共通認識を深めた。
- ・平成22年9月16日、福岡SRPセンタービルにて開催
早稲田大学 大貝晴俊教授による講演や本専攻の複数教員による講演を通じて、九州地区のカーエレクトロニクスに関する研究について、様々な企業からの参加者と討論し、情報交換を行った。
- ・平成22年12月11日、ホテル日航福岡にて開催
一般社団法人日本自動車工業会 理事・事務局長 岩武俊広氏による基調講演、企業の人材戦略、産学の一線で活躍している方々によるパネル討議、本専攻大学院生のインターンシップ成果発表を通じて、自動車産業のグローバル化に着目し、世界に通用し自動車産業のリーダーたるべき人材について展望を行った。
- ・平成23年3月5日、アクロス福岡にて開催
公益財団法人ひろしま産業振興機構 カーエレクトロニクス推進センター長 岩城富士大氏による基調講演、日本と韓国の自動車業界からの招待者による講演を通じ、九州地区とも交流の盛んなアジア、特に韓国に視座を置いた自動車産業のグローバル化を俯瞰すると共に、自動車産業の全体と今後の動向、企業における研究開発、そして人材育成等そのダイナミズムの展望を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本専攻には分野の異なる様々な教員が参画しており、文理両棲の性格を有している。オートモーティブサイエンス・コンソーシアムを開催することにより、企業等が抱えている諸課題を認識すると共に、教員間の研究活動に関する理解が促進され、学生の指導にも多面性を確保することが可能となった。このことは、「インターンシップ」や「上級国際コミュニケーション演習」など、本専攻が行う特徴的なカリキュラムの充実を図る上で効果的である。

また、本専攻の学生は各分野において異なるオートモーティブサイエンス研究を行っているが、学生が本コンソーシアムに参加することにより、「オートモーティブサイエンス」に対する多角的な視点を身につけることができ、併せて、諸課題に対する複合的なアプローチの重要性を認識することが可能となっている。

（注）・「 a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙の通り

自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成23年5月1日 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係自治体、企業及び希望があった学生に各1冊を配布
- ・上記報告書の公表後、統合新領域学府のホームページ上においても公開（平成23年8月末を予定）

認証評価を受ける計画

- ・本学では、平成19年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けている。
- ・次回は、平成25年度に大学評価・学位評価授与機構の評価を受けるべく、学内で検討している。

(注)・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (年 月 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/office/somu-bu/hourei/establish.htm>)

(注) ・ 「 c 」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「 d 」に記入してください。

なお、「 d 」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(大学)」としてください。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学府は、学問の細分化によって生み出された膨大な知を再編成し、統合的な新しい科学的な知や価値を追求して、現代の科学や社会の重要課題の解決に取り組むとともに、そのために必要とされる高度な専門的人材を育成することを目指し、平成 21 年 4 月に設置された。

オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程では、設置 1 年目及び 2 年目は定員 7 名を満たす入学者を安定的に確保してきた。3 年目となる平成 23 年度入学試験では、5 月 1 日現在において 1 名定員を割っているが、すでに平成 23 年度秋入学の希望者を確保できており、入学定員の充足については、何ら問題ないと言える。

これは、本専攻が取り組んでいるインターンシップやコンソーシアムを通じて「オートモーティブサイエンス」という学問分野に対する自動車業界からの関心及び認知度が高まっているためであり、当該分野の人材育成に係る本専攻への期待の高さを表している。

入学者選抜は、分野間の公平性・透明性を確保するために、各分野において、他分野教員を 1 名加えた書類審査及び口頭試問により実施している。また、受験生の本専攻における学習意欲を通じての専門的知識の習得度を基本的な尺度とし、自己の専門性を高めると同時に、関連する分野にも強い関心を持ち、次世代自動車社会の構築と問題解決に関する素養を有する人材を優先して選抜している。

また、優秀な学生を確保するために、留学生特別選抜や社会人特別選抜を実施した他、10 月入学の対応も図るなどの工夫も行っている。

本専攻では、企業の現状や将来展望と学生自身が本専攻において行っていく研究活動等を直接的にリンクさせ、現場での問題解決や問題の早期発見を意識した教育研究活動を展開させるため、年度開始直後に、主要自動車会社の重役経験者を講師として招き、自動車社会が抱える問題点や今後の展望に関する講義を必修科目として実施している。平成 23 年度は、平成 22 年度に引き続き、トヨタ自動車、日産自動車及び本田技研工業から講師を招き講義を実施した。

また、「上級国際コミュニケーション演習」では、本専攻の修士課程及び博士後期課程の学生が一堂に会し、全学生が各自の研究活動を英語で発表する場を設けている。本演習では、国際社会に求められる能力の養成を図るための英語力及びプレゼンテーションスキルについて学ぶだけでなく、理系・文系の垣根を越えて他分野の学生にも理解できるプレゼンテーションスキルを養うことによって、自己の研究への理解をより深めることに繋がっている。また、本専攻

の学生が就職する自動車関連業界においては、様々な分野のメンバーから構成されるチームで業務を行うことが想定され、より広い視野での問題解決能力や、他分野の考え方を理解し、また説得する能力といった実践で必要となるコミュニケーション能力を高める機会となっている。これらは、企業で活躍する一方で専門領域に埋没し、ともすれば技術の本質を見失う危険のある社会人学生についても効果が得られている。

このように、本学府オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程においては、設置の趣旨を十分に踏まえ、専攻の特色を活かしつつ目的を達成するために様々な取組みを行っている。今後も設置計画を踏まえ、本学府オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程における教育研究の質の向上を図っていきたい。